

内川地区の次世代都市化基盤 となる建設に向けた社会的・ 文化的・空間的調査

令和7年度とやま呉西圏域調査研究事業
令和7年6月～令和8年2月

上原雄史
富山大学芸術文化学部

エグゼクティブ・サマリー

- 研究目的

地方都市の人口動態をプラスに変え、復興の都市化を押し進める「幸せな街」の存在を確認する。

- 主な成果

- 1) 富山県と地域の特性を活かした、融合型の社会問題解決方策の可視化。
- 2) 景観要素による職住近接新築で、リノベ事業に新築を加え、地域価値を融合思想の確立。
- 3) ゲームで地域の高校生との共感の達成、十年後にプラスに転じる地盤強化方法の提案。

- 地域への効果（1～2点）

- 1) 「幸福」と「満足な人生」を復興の目的に据え、達成度を活動+教育+建築で可視化する。
- 2) 少子化、高齢化、震災などを復興を、活動+教育+建築の融合手法で捉える。

- 今後の展開

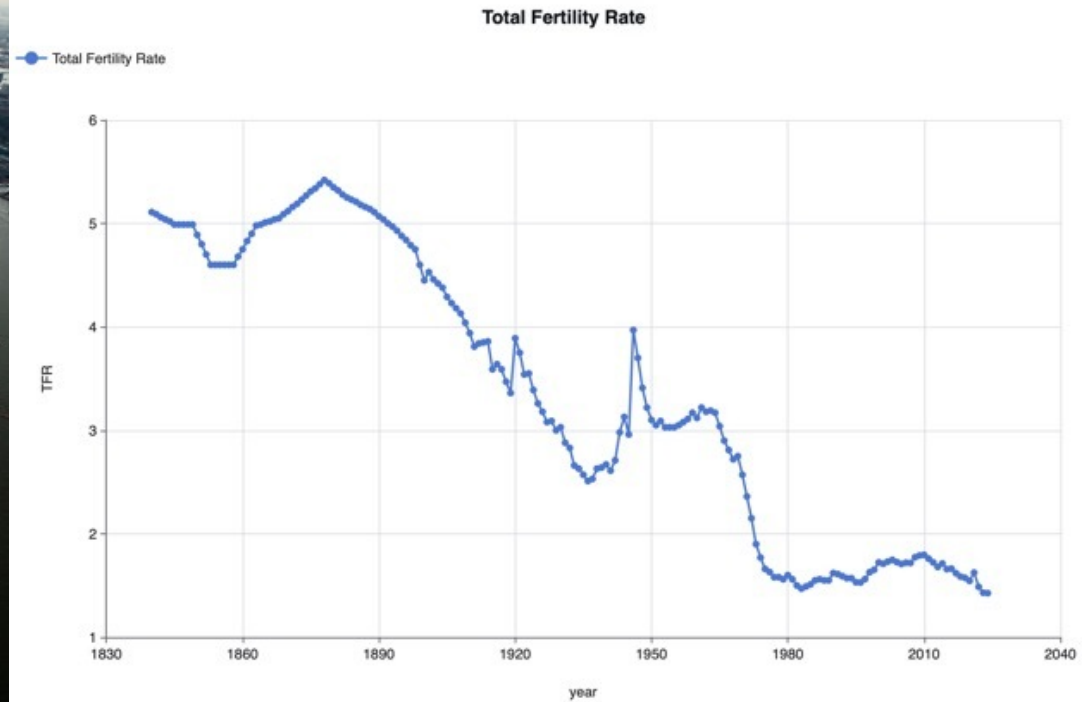
住宅は「満足な人生」で「復興」する力

- 震災公費解体は、後追いではなく、事前復興の視点を示した。
- 高い「満足な人生」（全国第二位）の意識は、「職住複合住宅」の方針に敏感。
- 「持ち家率第二位」「県立高校主体」「目覚ましい自然の魅力」「薄い家族経営M産業」を融合する解決策の提案と可視化。

オランダの都市政策、建築と総人口



上原雄史が設計したアムステルダムのボルネオスポールンブルグ地区



オランダの自然出生率
総人口1990=14.9, 2000=15.9, 2025=18(100万人)

オランダは「幸福率」世界第五位



上原雄史が設計したアムステルダム
のボルネオスポーレンブルグ地区

Figure 2.1: Country rankings by life evaluations
Gallup World Poll (2022-2024)



<https://www.worldhappiness.report/ed/2025/executive-summary/>

研究目的と到達目標

- 災害に強いまちの提案
- 若者が住み続けられる魅力的な「満足できるコミュニティ」
- 伝統景観を活かした正統性ある建築形式の創出

研究計画：設計案と多様な言説

タイムスケジュール

- 11月:大学学部二年生設計演習、 2月:新湊高校生徒による検証

構成

- 技術+理論：芸術文化学部教員 3名+東京科学大外部講師、
- アカデミア、民間、景観アドバイザーによるシンポジウム

研究計画：設計案と多様な言説

データ

- 20を超える景観要素、30の設計案、
- 多様な言説収集：内外教員（講義と講評）、学生、高校生

分析

- Pythonによる分析コード開発（MeCab日本語環境）

研究方法：若い思想を理解し形を与える

- 理論型、学生による設計、外部講評、高校生との対話、分析
- リサーチ・バイ・デザイン手法
- 外部講師、シンポジウム、広い知見の収集、厚い教育機会の創出

未来への投資

- 地域に残る高校生とともに、未来を築く第一歩を踏み出す

研究方法：リサーチ・バイ・デザイン

戦後アメリカの「夢を実現する」方法

- 大学がシンクタンク・メディア・未来の牽引力

未来の「人」への投資

- 未来を担う人とともに、思想・技術と体験を築き上げる。

未来の可視化

- 資本活動を超えた社会的目的の優先
- 情報共有

予算執行の概要（1枚） ★評価重要

- 外部エキスパート招聘（交通費含む） 約35万円 70%
- 会議費（会場など） 約 3万円 6%
- 広告費 約 2万円 5%
- 研究補助 約10万円 20%

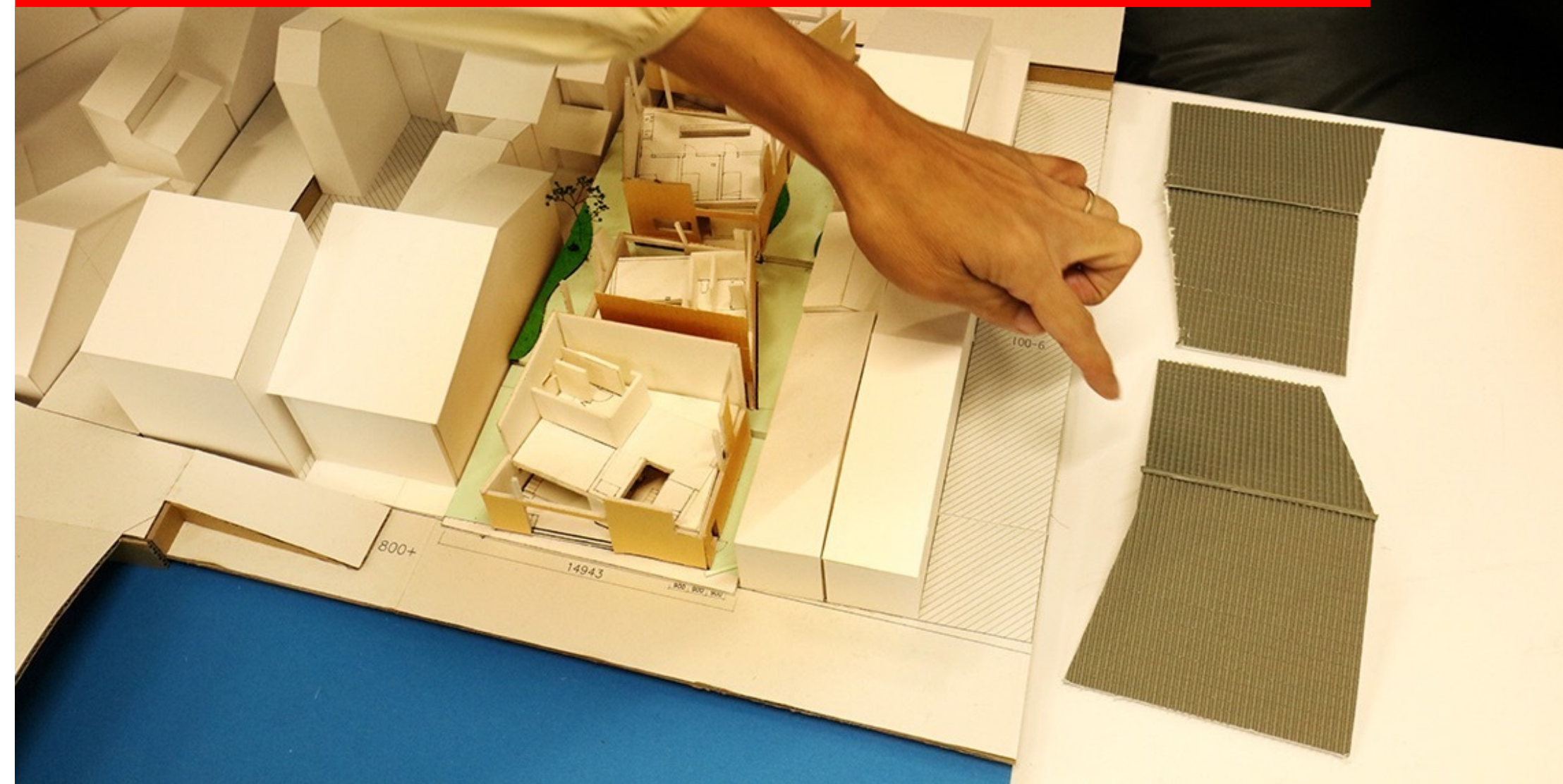


研究成果：多様な景観要素の抽出

- 新しい活動と伝統景観は対立し融合しない、を払拭。



伝統景観と「現代的な場」の滑らかな連続



研究成果：言説の収集

- **言説**

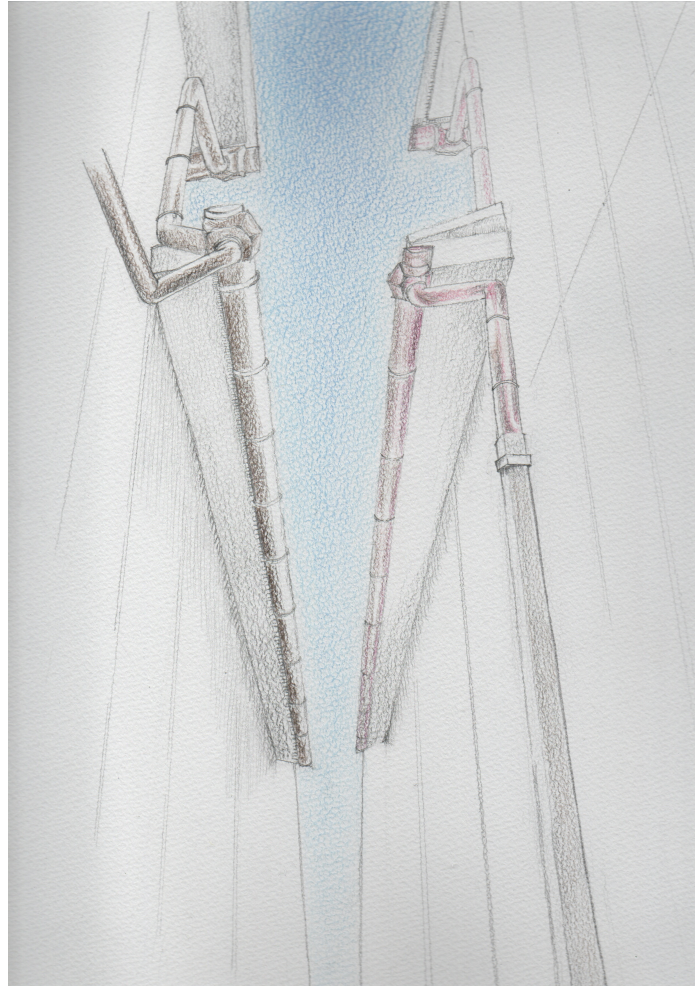
- 10万語を超える未来の住みたいまちに関する「生の声」を収集
 - LLMモデル、もしくはTFIDFによる言語分析。
 - 「家」や「まち」の持つ意味の変形を抽出できる。
-
- 設計案に関する「生の声」の分析は、過去より飛躍的に具体化、向上する。

研究成果：25の景観要素の抽出

繋がるまち



鋭い空



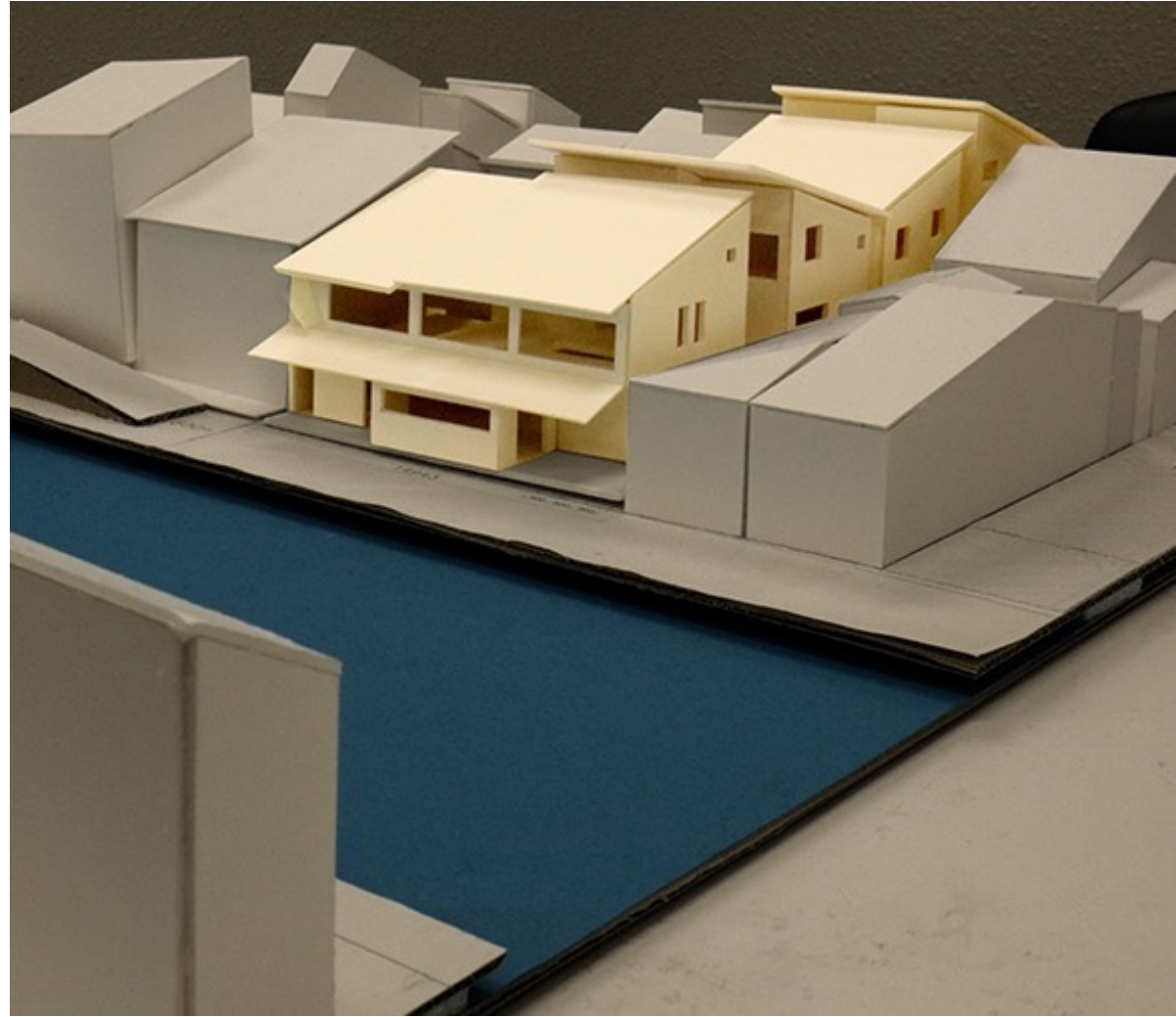
なみうつまち



研究成果：日本の戦後文化との連続

当初予想との対比

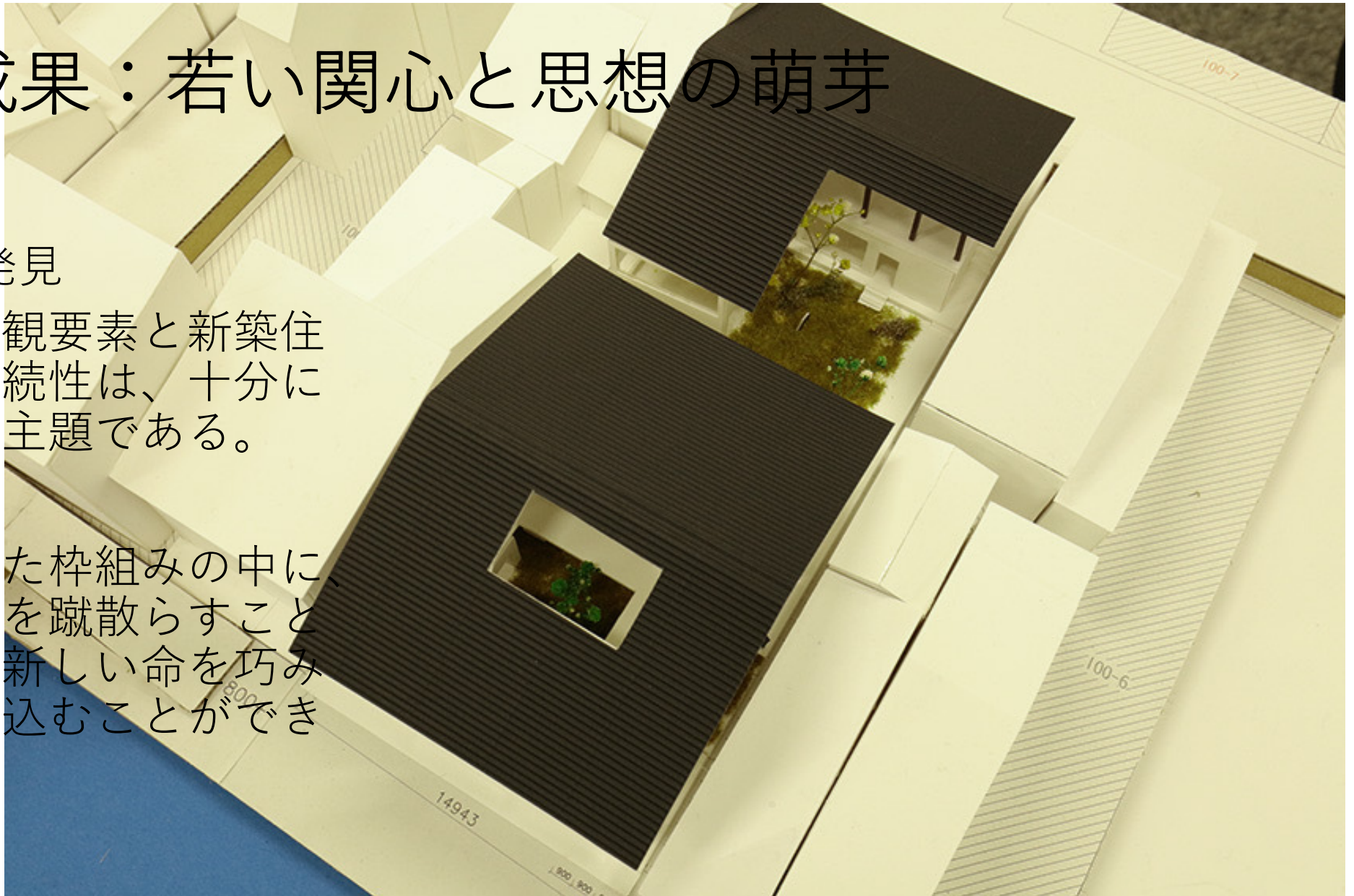
- 地域の家は面白い。
- 地域の家は、現代と戦後を繋ぐ。



研究成果：若い関心と思想の萌芽

新たな発見

- 既存景観要素と新築住居の連続性は、十分に若手の主題である。
- 限られた枠組みの中に、あたりを蹴散らすことなく、新しい命を巧みに吹き込むことができる。



研究成果：シンポジウム

- 既存景観要素と新築住居の連続性は、十分に現代建築の主題でありえる。
- 「まちづくり」が抽象的な課題となりつつある。
- 「広義の復興」により、M産業、リノベ、新築、ファミリービジネス創出、教育、多世代の出会い、など多様な活動の場を具体化し、可視化する活動に移行できる。

復興 記憶 近未来

シンポジウム Edition.1

令和8年3月3日(火) 13:00 から 16:30 まで

クロスベイ新湊 2F iCN ホール
富山県射水市本町2丁目10番30号

富山大学芸文建築領域
上原雄史准教授・空間デザイン専攻助教授

13:00 開演

14:15 パネルディスカッション

塚本 由晴
富山大学准教授

藤村 龍至
東京工科大学教授

加納 亮介
東京科学大学助教授・建築事務所代表

武脇 仁
富山県行政管理局管理官 民間協力官・地域活用課 社会連携デスク 課長

15:40 意見交換

松原 穂積
秋田県地域振興協会会長・東阿部自治会会長・うちらの村社若菜モデル地域実践実行委員会委員長

モデレーター 上原雄史
富山大学芸文化学部准教授

景観 参加型新築

富山大学芸術文化学部 上原雄史研究室 富山大学芸文化学部建築領域 富山大学大学院 富山大学デザインセンター
「内川地区の次世代都市化基盤となる建設に向けた社会的・文化的・空間的調査」 / とやま県西地域調査事業

地域・社会への波及効果 「建築ドラフトゲーム」の創造

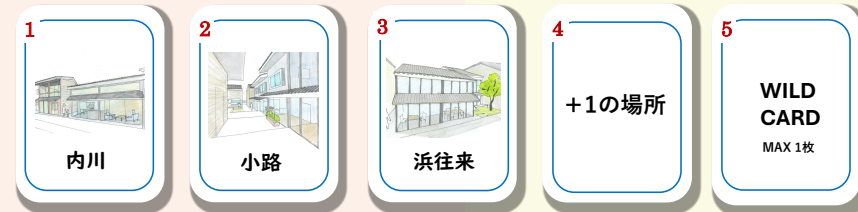
- 外部講師と学生の参加で作
出した新しいゲーム。
- 能動的に街と言説を生成する。
- 県内高等学校との連携、多
年度事業化を検討中。
- 他まちづくり活動との関連
調査の基盤。

建築ドラフトゲーム

2026 3月2日
午前中 新湊高校

建築ドラフトゲームとは

芸文学生が制作したパースを使って新湊高校の生徒さんと
あなたの新しいまちを組み立てます



- 選んだカードをA1パネルに貼り付けてまちを表現します
- できたまちのニックネームと全体の説明(20秒)、
4枚のパース(25秒)で発表します

PROGRAM

- 10min 大学生の課題をドラフト形式で発表
- 15min 高校生×大学生でゲーム
- 10min 120秒でプレゼンテーション

企画 富山大学芸術文化学部 上原雄史研究室
「復興・記憶・近未来 - 景観参加型新築」プロジェクト
活動主体 空間デザインD受講生 + 富山県立新湊高校生徒

地域・社会への波及効果 お金ではなく、「私たちの街」の創造へ

- 地域の景観価値の向上
- 現代的活動と伝統景観の融合
- 近代建築の「新旧対立」の欲求不満の構図を払拭
- まちづくりを「お金」の問題から「満足感」「帰属感」の能動的な創造に移行できる。

地域・社会への波及効果

- 景観要素の抽出は、WS化して汎用可能。
- 大学課題は、リサーチバイデザイン手法で地域の価値と未来を描き、若者や地域住人の繋がりを生み出す機会創出の中心であり得る。
- まちづくりの目的は、「人生の満足感」「幸福感」と結びつき多様な社会問題の解決策であり得る。

学術的成果

- 論文数 日本建築学会論文3本を予定
- 学会発表 日本建築学会論文梗概 3本と予定

- 科研費に広げて外部資金獲得
- ベルギーやエストニア、あるいは台湾の大学との国際交流

課題と改善点

- 想定外の問題

大学での課題開催時期が計画遂行の鍵となる。

日本語音声録音と文字起こしテクノロジーが成功の鍵を握る

- 今後の改善策

より広い住民を対象とした意識調査と言説収集を続ける

- 誠実な態度でまちの未来と取り組み、信頼を勝ち得ることが重要、

今後の展開

- 次年度計画

多角的な住民との交流機会の創出。

- 自走可能性

一軒の家を中心として、内川景観に直接面さない家が、内川の文化に属する、という意識の創出する可能性を探る。

- 追加支援の必要性

より高度な学術意見交流と、LLMモデルやテクノロジーの利用で生の声を分析する速度を上げる。

まとめ：融合的未來創造への道

- 本研究の意義

八ヶ月の期間で、25の景観要素、30近い設計案を抽出し、これを媒介に近未来の街の姿、理想や課題に関しての言説を収集することができる。

- 行政支援の効果

高度な意見交換の土台を構成し、行政がまちづくりの生の声を理解する機会を創出できる。

- 今後の展望

新築住居は個人の自由のしるであり、伝統的な景観保全とは交わらない、という先入観を払拭する。